

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

文化高知

2011年7月 NO.162



[もくじ]

- 2～3 「平成の龍馬たれ！」(現代に生きる志と心)…渡邊五郎
- 4～5 県民文化ホールリニューアルオープンにあたって…真嶋清重
- 6～7 中西繁展「廃墟と再生」in高知を終えて…植田鈴子
- 8～9 ホットケーキのような場所…アメリア・ベルナデテ
- 10 言葉の現場から28「日本のせんたく」のなぞを読み解く…広井護
- 11 名作中の名作「一年半待て」…頭川博
- 12～13 高知市文化振興事業団5月～6月の事業から
- 14～15 風俗歳時記・風伯

表紙デザイン:「あの夏の日」野村沙矢

(財)高知市文化振興事業団

「平成の龍馬たれ！」

(現代に生きる志と心)

渡邊 五郎

昨年は龍馬の年。「龍馬伝」を始め土佐の内外で龍馬の話で賑わいました。この燃えるような熱気を経営においてもビジネスにおいても絶えず上昇気流の流れの中におき続けた気持ちには、土佐人に限らず皆の心からの願望だと思えます。龍馬と同じこの土佐に生を受けたものとして、今まで私が、世界の各地でお目にかかった方々の考え方や生き方を通じて教わった私なりの考え方を披露させて頂き、平成の龍馬たれの心意気を喚起出来れば幸いです。どんなに世の中が激しい変化を遂げようとも変わらぬ心といえますか、日本人としての大切な魂の基軸、「志と心」について龍馬を思いながらいくつかお話ししてみたいと思います。

第一番目に自然体で生きるということ。龍馬も自然体で生きたお手本の様な男だと思えます。その例としてご紹介したい私の大好きな言葉があります。「粗にして野だが卑ではない」。この言葉は、三井物産の大先輩でもありニューヨーク支店長の経験もあり、後に国鉄総裁にもなった石田禮助さんという人のことを評して、作家の城山三郎さんが書かれた本の題目です。人間粗野であっていいが、卑しくはいけない。私も土佐人として、荒削りであり、悪いことばかりやっているの、あまり自慢はできませんが、「品行は悪いが品性だけは悪くないぞ、品格については六十まで待て」と言っていました。ところが、もう六十も過ぎ七十七、後期高齢者の分岐点も過ぎてしまいました。最近では、「品格については灰になるまでそれを絶えず志向し続けて生きていきたい」と叶わぬ理想の願いを言い続けています。「粗にして野だが卑ではない」、まさに坂本龍馬の精神を表現するにふさわしい言葉だと思えます。品性だけは男

の最も大事な核心。大切に下さるべき。

二番目に理想のリーダー像として取り上げたいのがエレガントカリスマいわゆる品位のあるカリスマ性であります。かつて社外取締役をさせて頂いたアメリカのDupontという化学会社の元会長Edward Woolardさんの引退記念パーティーでショートスピーチを頼まれました。私は「エドはエレガントカリスマのある男だ」と言いました。そこに居合わせた社外取締役の方々から、「五郎素晴らしい言葉を言ってくれた。まさにそれはエドにぴったりの表現だ。この二つの言葉を組合せた賛辞はアメリカ人からも聞いたことがない」といってお褒めの言葉をいただきました。なかなかエレガンスとカリスマ性を兼備したリーダーは少ないものです。カリスマ性はあってもエレガンスに欠ける方が

多い。エレガンスとは心に品があることです。心の背筋が伸びており心に品があるということは素晴らしいリーダーの資質だと思います。日本人の魂の基軸の真中において欲しいと願うものです。

三番目に(したたかさ・しなやかさ・つややかさ)(修羅場・土壇場・正念場)について。かつて我々仲間のゴルフ会で前防衛大臣であった久間さんが、私がかつて紹介した男の人生で大事な三条件(したたかさ・しなやかさ・つややかさ)を覚えていて御挨拶に使って下さったので調子にのって次のようなお話をしました。実は先般、或る先輩から男は修羅場・土壇場・正念場をくぐり抜けてきた浮世のどん底の経験はいくら持っているか。オーバーな言葉で言えば何度地獄を見てきたか、とことん腹のすわった、したたかさやしなやかさ、懐の深さがないといかんと話の伺いました。私はそれに「濡れ場」が加われば鬼に金棒だという話をしたら、その「濡れ場」が大変うけて会場のいたるところで「修羅場・土壇場・正念場」は忘れていた人が大勢いましたが濡れ場だけはしっかりと憶えていて、私の話の余韻を楽しんで下さっている方が多くおりました。皆さんそれぞれ公

私にわたり今後奥深い修羅場・土壇場・正念場・濡れ場を幾度となくぐり抜けていかななくてはならないとは思いますが、是非今後は与えられたそれぞれの場ではなく、御自身でつくりあげた個性ある正念場で大いに活躍して欲しいと願うものです。

四番目にカデンツァという言葉をご紹介しましょう。カデンツァというのは、クラシカルミュージックの協奏曲の中で、演奏者が独自のアドリブ演奏を入れることができる部分のことをいいます。歴史に残る完成度の高い協奏曲の中に入れるものから、当然、質の高い演奏が要求されるわけで、そのために奏者の技術力に加えその独自性や、創造力の質が問われます。会社もこのカデンツァと同じで、組織のルール(協奏曲)の中で、社員すなわち(演奏者)一人ひとりが、企業の規範を遵守し



(株)経営塾 月刊BOSSより

です。いわゆる日米交渉や日中交渉においても単なる妥協ではなく、相手の意見を尊重し、寛容・寛恕の気持ちを持って、絶えず落しどころを見出していくという姿勢が大事ではないかと言われました。私は、単なる落しどころではなく、高度な落しどころ

が必要としてこれを「elegance solution」と勝手に英訳してその必要性を強調しております。ビジネスの世界での交渉事や外交交渉の際、自分の主張をことごとく押し通し、自説を固持しているようでは国際舞台では尊敬されません。剣道の達人は「間合いの見きり」が出来るといわれます。我々も世界を相手にした厳しいやりとりの中にあっても、相手との距離を正しくはかり、最後の逃げ道を相手に残しておいてあげられる位の寛容さ、激論の中にも高度な落しどころ(エレガントソリューション)を考えられる度量の大きい志と心が、我々日本人としてのリーダーシップの真髄に迫る姿ではないでしょうか。絶えず高度な落しどころ(エレガントソリューション)を見出して行こうとする謙虚で柔軟な気持ちを持って、堂々といひ意見の違いを戦わすことが国際社会においても尊敬される根幹だと思えます。正に龍馬は他人の話に耳を傾け心を込めて感動しながら絶えず高度な落しどころを見出していかうとしていた人ではなかったかと思えます。それだからこそ、あの明治維新の激動の中で大きな構想力を持ち数多くのリーダー達を説得して華やかな檜舞台をつくり上げるこ

とが出来たのではないのでしょうか。

繰り返すには絶えず新鮮な好奇心を持ち、より高い価値観を求めて常に挑戦して生きて欲しい。既成概念にとらわれず自由な発想と夢を持って誰にでもできない、自分にしかできないアプローチで挑戦すること。素晴らしい個性ある生き方をして欲しいのです。数多くの尊敬する先輩を輩出した、我が郷土土佐に、大きな誇りを持って皆さん一人ひとりが、活躍の舞台を世界に求め雄々しく羽ばたいて欲しいと願っております。

「世界に翔ばたく未来の坂本龍馬たれ！」の言葉と共に大好きな言葉をご披露して私の話を終わらせて頂きたいと思えます。「人生はただひとたびの饗宴なれば、太く豊かに生きられよ」太く短くではないぜよ。太く豊かに。

わたなべ ごろう

一九三四年 高知市生まれ
高知小津高校、早稲田大学政経学部を卒業後、三井物産株式会社入社。常務取締役業務部長、専務取締役、米国三井物産社長を歴任し、一九九六年、代表取締役副社長に就任。アジア人として初めての米国デュポン社取締役、三井化学株式会社代表取締役会長等を経て、二〇〇三年九月より森ビル株式会社特別顧問。

県民文化ホール リニューアルオープンにあたって

真嶋 清重



近い将来発生するとされている南海地震に備えた耐震補強が喫緊の課題とされるようになってきました。こうした中で、曲折はありましたが、県民文化ホールの長期休館を伴う大規模な改修工事が行われることになりました。

昨年五月から休館して行われた今回の改修は、財政的にも厳しい状況の中、これまでいただいていたご要望に全て応えられた訳ではありませんが、限られた予算の中で、①安全性の向上、②機能性の向上、③快適性の向上を三つの柱として工事が行われました。

まず、①安全性の向上では、耐震補強として耐震壁及び鉄骨ブレースの設置や天井落下防止補強が行われました。ホールという建物の構造上、一定の制約がある中で南海地震へ備えた耐震補強がなされています。

次に、②機能性の向上では、ホールの機能向上として、舞台機構、舞台照明及び舞台音響設備の更新がなされました。具体的には、舞台機構では、舞台機構システム

一部を高速化及びデジタル化するため制御盤を更新しました。また、手動照明バトンを電動化し、作業の安全性と作業効率の向上を図りました。

音響設備の改修では、デジタル化への対応として、ミキサー、出力マトリックス及びシグナルプロセッサ類のデジタル化を行いました。また、イーサネットによるデジタルマルチネットワークシステムを構築し、将来を見据えた舞台音響システムのインフラを整備しました。

照明設備の改修では、新規調光データ記憶フォーマットJASC IIに対応し、かつイーサネットによるデータ通信に対応した調光操作卓に更新しました。また、イーサネットによるデジタルマルチネットワークシステムを構築し、将来を見据えた舞台照明システムのインフラを整備しています。

その他、老朽化した電気機械設備の更新や、オレンジホールのロビーの西日対策として木製の格子の設置など省エネルギー化が図られました。

③快適性の向上では、オレンジホール（大ホール）とグリーンホール（小ホール）の客席を全面的に更新しました。オレンジホールの中央部分は千鳥配列とし、視界が確保されるように配慮しています。併せて、お子様が視界を遮られて困ることのないよう補助シートを無料で貸し出しするようにしています。

また、ご要望の強かった女性用のトイレの増設や楽屋と舞台袖を結ぶエレベーターを設置しました。

さらに、バリアフリー化を促進するため、街路から客席までスロープによる動線を確保しました。また、オレンジホールの障害者席を三席から八席に増やしております。

一方、事務棟につきましては、要望のありました練習室を三階に整備し、音楽、舞踊などの練習にご利用いただけるようにしております。また、練習室にはセミコンサートグラウンドピアノを設置しております。その他、会議や研修の場としてご利用いただける多目的室は九室となっております。

一連の改修工事も終わり、七月一日にリニューアルオープンしますが、この休館中に東日本大震災という未曾有の

大災害が発生しました。この震災によって被災地域はもろろんのこと、その影響は経済活動など様々な分野に及び、被災地以外の地域においても伝統的な行事や文化芸術活動が縮小される動きがありました。

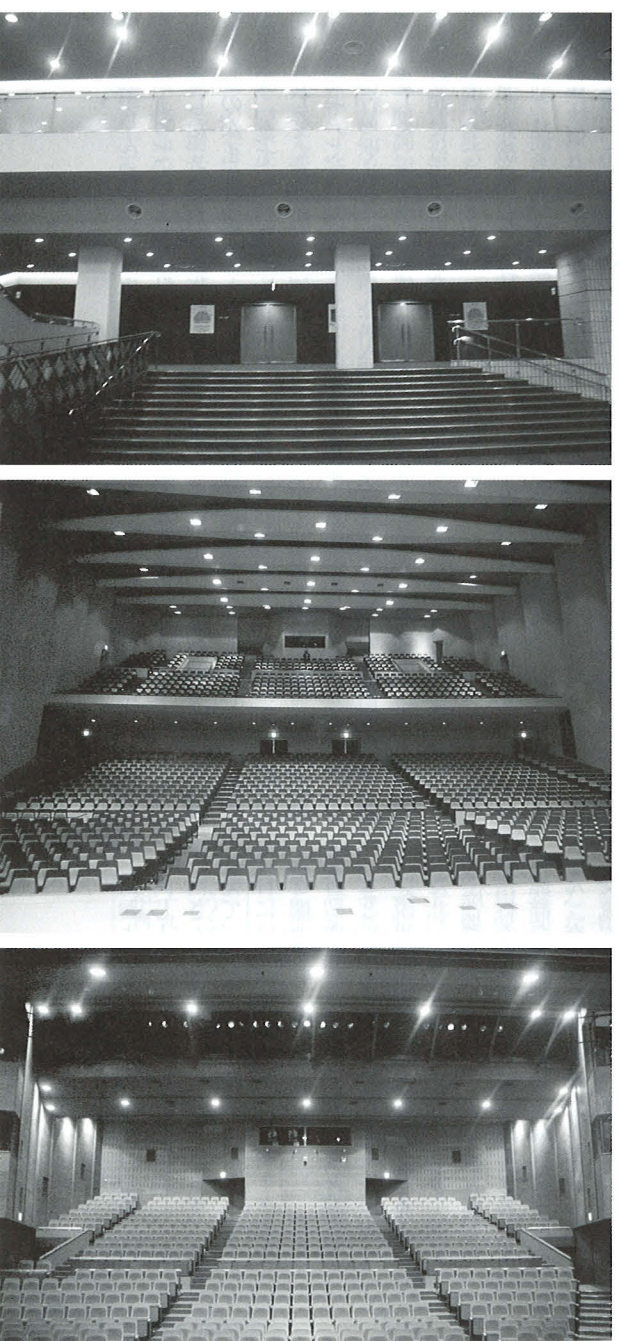
ただ、文化芸術活動は、人々に心の安らぎと生きる力を与え、明日への希望を与えるものです。被災した方々の心情や電力事情等を踏まえながら、全国各地で活発な文化芸術活動が展開されることによって、国民一人一人が復興に取り組んでいく元気と活力を取り戻すことが必要ではないでしょうか。

今回の大震災は、県内にも様々な形で影響を与えていますが、リニューアルした県民文化ホールがたくさんの方々にご利用され、

県民に感動と希望を与え、困難に立ち向かう力となることができれば、復興の支援にもつながるものと考えています。

リニューアルオープン後は、県民文化ホール主催のリニューアルオープン記念大阪交響楽団ガラコンサートを皮切りにたくさん催物や大会行事などが予定をされております。どうか、新しくなった県民文化ホールにお出でいただきますようお願い申し上げます。

ましま きよしげ
一九四九年 香南市野市町生まれ
二〇〇九年四月より高知県立県民文化ホール館長。



中西 繁展 「廃墟と再生」 in 高知

を終えて
植田 鈴子

「中西繁さんってだれ？」という言葉で始まってから二年近くの歳月が流れました。激動の二年だったなあというのが正直な感想です。私に中西繁展「棄てられた街 in 松山」の紹介をしてくれたのは幼なじみの竹田さんでした。熱心なお誘いに、それでは行ってみるか友人三人で出かけました。そもそも洋画とか油絵という類には全くの素人で関心もあまりなかったのですが、会場へ入るやいなや意識は一変。作品の大きさにビックリし、作品が発するメッセージに圧倒されてしまいました。パリのモンパルナスの絵の前では、今自分がその街角にいるような錯覚さえ覚えるような息使いと暖かさを感じ、チェルノブイリやアウシュビッツの作品の前では身ぶるいするような恐ろしさを覚え、ただただ感動しました。そしてこのような絵画を生み出す作者とはどんな人だろうと関心が高まりました。結局、松山展へは一週間に二度出かけました。年が明け平成二十二年三月。前述の竹田さんが高知で中西展をやりたいねということ、寅年同級生四人で実行委員会を立ち上げ、一宮のカフエギヤラリー風林をお借りし小作品展を開催。中西さんも来高くださり五月の高知を満喫。そしてこの風林展で爆発的に中西ファンが増えたのです。「高知で大作品展をやってほしい」と毎日毎日ちきん達からの要

望に「四国はつい最近松山で開催したから高知ではやりません」と断言していた中西さんも徐々に気持ち折れ「やりましょう!!」ということになったのです。大喜びの私達でしたが、反面責任の重さに身の引きしまる思いでした。今度是小作品展の規模ではありません。せつかく開催するのですから是非ともたくさんの方に観ていただきたいと思いました。それも開催にかかる費用は全て中西さんご本人が負担し入場無料にすると言うのです。「巡回展は十都市目になるが全て無料で開催してきた。高知だけ有料というのはどうもよくない。無料開催は自分の社会貢献活動だ」とのこと。無理にお願いした私達とすれば申し訳なく思いましたが、それならばどうするか!! 実行委員会を七人体制に強化、中西さんは立派な画家ですが残念ながら高知では知名度が低い、中西さんとその作品を知ってもらうことが肝心だねということになり、佐賀の奈路さんがニュースピラの編集をしてくれることに。奈路さんいわく「これは単なる宣伝かね、それとも運動かね」。即座に運動ですと答えたのが心に残っています。費用は全て中西さんが出すとのことですが、せめて事前広報の費用と雑費は自分達でカンパを募ることにしました。ニュースピラは四号発行しましたが、各号三千枚前後を印刷し、D

Mおよび手渡しでPRに努めました。同じ人にNo.1-4を重ねて渡し、中西さんを理解して頂く方法です。加えて、七月二十一日・十一月二十三日には中西さんを囲んでトークの会を開催し、中西さんの思い・考え方・作品について等を知ってもらうことに注力しました。言葉のいらぬ説得力は実際に大作品展を観ることだ!! と九月平城遷都千三百年記念「廃墟と再生 時空を越えて」を見に行くツアーを企画。二十三名で大作群を鑑賞し興奮は最高潮。中西さん、奈良展実行委員会の皆さんとも交流し奈良を大いに楽しんできました。二〇一一年、パンフレットも仕上がり、いよいよ本番の年です。後援も行政、マスコミをはじめ十九団体からいただきました。二月一日・二日にかけて中西さんと一緒に後援団体へ表敬訪問しました。休憩時間もないぐらい欲張ったスケジュールでしたが効果はてきめん。ある全国紙の支局では「数々後援団体にはなつたが作家本人が挨拶にきてくれることはめったにない」と歓待してくれました。高知の「おきやく」を体験しようとして「南国土佐観光びらき」にも参加。岡崎高知市長が壇上より中西さんを紹介してください、びっくりするやら感激するやらでしたが、おかげで会場のたくさんの方とお話できました。また市長は高知市広報

紙「あかるいまち」に中西展開催のことを執筆してください、高知市全体に告知できたのは大変大きな出来事でした。

中西展のメッセージ性を特に若い世代に感じてほしいという視点で、高校美術工芸教師の方との交流会や、高知市、南国市、土佐市、香美市の教育委員会のご協力で各市内の中学校へパンフレットを配布いただき、児童生徒の皆さんやそのご家族に鑑賞を呼びかけました。アンケートご記入者の中に十代の方が多いのはその結果だと推測します。

開催まであと一か月に迫った三月十一日。あの東日本大震災にみまわれ、日本中いや世界中が深い悲しみに包まれました。衝撃的な大自然災害と原発事故で目を覆うばかりの廃墟と化した街や村は、これまで中西さんが描いてきた絵画そのものでした。(いえそれ以上のものですが)この街や村、そして生活の前途を絶たれた人々の復興・再生こそが中西さんの最も願っていることではないだろうか。この絵画展を通してより一層の「支え合い」の心を寄せたいものだ。そんな気持ちで準備の最終段階を迎えました。

そしてオープン前日、大きな作品六十点の搬入飾り付けです。中西さんの指示のもと、三十三人のボランティアによりかるぽーと第一・第二・第三展示室という広い会場に絵

が展示されていきます。ほとんどの方が、これほどの大作の展示に関わるのは初めてで、作業をしながら感動した時間でした。予定より早く完了したので、中西さんから作品解説をしていただきました。一枚一枚にかけた作者の思い、危険と隣あわせのチェルノブイリの取材の様子、その迫力、描きだされた真実は心にしみわたります。何より広い会場にゆったりと展示された絵画が、いきいきと存在感を示しているようでした。いよいよオープン当日、お天気も上々。期待と不安で迎えましたが大勢の方に鑑賞いただき感動の声・声・声が寄せられました。オープニングセレモニーでは中国人歌手・李広宏さんが素敵な歌声を披露。オープンに花を添えてくださいました。会期中、ギャラリートーク二回、作品解説二回(団体鑑賞や必要があればその都度何度も実施)を行い、テレビ・新聞で度々取り上げていただきました。今回高知のために描いてくださった「高知夕景」。会場で作品を公開制作し、完成させるといふ初めての試みも大変面白く、刻々と表情を変えていく作品に魅了された方も多かったのではないのでしょうか。十日間の来場者数はのべ五千八百二十八名。作品の搬入搬出、受付等のお手伝い百十五名、東日本大震災

のカンパ五十三万円。すべて手作りのボランティアでの運営の結果でした。高知市に寄贈された「高知夕景」は既に市役所本庁に展示されていますのでいつでもご覧になれます。またカンパは南三陸町の「宮城県志津川高等学校」に贈りました。同町は中西さんが「津波」という画題で描く地であり、カンパの主旨にふさわしい学校で活用いただけることを嬉しく思っています。

中西展開催で学んだことは、

- 一、何ごとも楽しく取り組むこと
- 一、事前準備の重要性
- 一、情報をオープンにし共有すること
- 一、コミュニケーションはツーウェイで
- 一、一人一人果たす役割がある
- 一、草の根の運動は力強い
- 一、マスコミ・報道は威力がある

等々

もうひとつ、中西展の残したものは何かと考えると、大きすぎて答えは出ませんが、ひとつ言えることは、日常生活の中で文化や芸術を楽しむ、豊かな心を醸成していくことの大切さと、その機会を市民はおおいに欲しているということ。この中西展を通じて出来たネットワークを高知の文化発展のために役立てたいなと思っています。

最後になりましたが、実行委員会

による広報活動のためにカンパしてください。くださった大勢の皆さん、実行委員会の支えであった岡林御舟さん・藤田紅子さん・北泰子さん、後援をいただきました各団体の皆さん、尾崎高知県知事、岡崎高知市長、宮田高知新聞社社長、岩井高知新聞社相談役をはじめご支援、ご協力いただきました全ての皆さん、ボランティアで特別出演くださった李広宏さん、松田弦さん、ご鑑賞いただきました多くの県民の皆さんに心よりお礼申し上げます。

そして何より、中西繁さん、本堂にありがとうございました。今後とも高知と親しいお付き合いをお願いします。



2011/04/14

うえた れいこ
一九五〇年 南国市生まれ
中西繁展高知実行委員会代表。

今からちょうど二年前の夏、私は山に囲まれて、ある土地に向かつて飛行機に乗ってきました。しばらくすると日本では珍しい、人名で名付けられた龍馬空港に着きました。その時は初めて来高した時のことがよみがえって思わず「たたいま」と眩きました。

私が高知に滞在するのは初めてではないのです。平成十四年十月から一年間のプログラムで高知大学に留学することになりました。その期間は最初は長く思いましたが実際は短かったです。私は、高知市と私の出身のインドネシア・スラバヤ市が姉妹都市ということ来高する直前まで知りませんでした。スラバヤ市は人口約三百万人、ジャワ島の東に位置するインドネシア第二の都市です。姉妹都市なので、スラバヤと変わらないでしょう、と私は勝手に想像して来ました。しかし、予想は外れていました。スラバヤと違って、高知は田んぼが多くて、人や車も少ないし、店の営業時間も短いです。スラバヤでは特に街の中心にあるモールへ行くとき様々な店があって、買い物に便利なのになあ、とつい比較してしまいました。

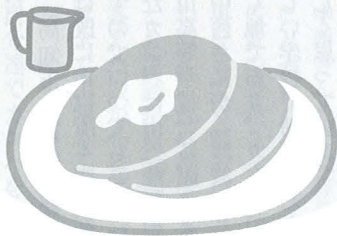
当時は、全てのこと初めてのことがかりでした。初めての家族と離れての暮らし初めての海外、初めての寮生活などで不安でした。しかし、すぐに友達ができましたし、スラバヤの先生の紹介で何でも相談に乗ってくれるお母さんのような存在の人もできました。

ました。前にも述べましたが、スラバヤと比較すると高知は人口が少ないです。したがって、高知ではのどかな生活を送ることが出来ます。道路や公共交通機関もあまり混まず快適に利用できます。時々路面電車の日乗車券を利用して、いの町や遠く行きたい所まで行きます。電車の中は人が少ないため、ゆったり座れるし、ボーッとしながら周りの話も聞こえてくるので、日本語の聞き取りの勉強にもなります。電車で市民の方に声をかけてもらった時もありました。分かれる際に「仕事頑張って。高知での生活を楽しんでくださいね」と言いながら微笑んでくれました。

地産地消のひろめ市場に友達と一緒に行くのも好きです。安く美味しい物も食べられるし、雰囲気を楽しみながらその場にいる人と交流できるので、ひろめ市場がお気に入りの場所の一つです。そのため、県外の友達が高知に遊びに来たら、必ずひろめ市場へ連れて行きます。今まで遊びに来てくれた友達はみんなひろめ市場を気に入ってくれます。インドネシアでは生の魚を食べる習慣がないのに、「鱈のたたきはおいしいね」と県外に滞在中の同じスラバヤ出身の友達が言ってくれました。また、「相席の方に声かけられて最初はびっくりしたけど、いいねえ」という感想がほとんどでした。「高知市民はあたたかいね」と嬉しそうに帰った友達もいました。

しかし、残念なことにみんながそうではないようです。今頃の若い人は、周りの高

ホットケーキのような場所



アメリカ・ベルナデテ



齢者や両親に対する態度が昔と比べたら敬意が薄くなってきていると思います。年上の方が近くにいると挨拶せず、言葉遣いも乱れて振る舞うのを見ることがあります。以前インドネシア語講座で受講生から「今の若い人、特に高校生が怖い」と聞きとてもびっくりしました。インドネシアでは子供が親や年上の人に敬意を表し、乗り物で席を譲ったりするのは常識です。親や年上のことを怖いから言葉に従うではなく、尊敬するから言葉に従います。

この間、久しぶりに里帰りをしました。スラバヤと高知をまた比較してしまいました。買い物するにはやはりスラバヤがいいです。数多くの店が夜九時過ぎまで営業していますので、便利です。夜遅くまで公共交通機関も走っていますので、高知のように終電や終バスの時間を見なくてもゆっくり活動できます。あまりの便利さで、スラバヤではあまり歩きませんでした。目的地の一番近い所まで降りしてくれますから、

初めての海外生活で、故郷のインドネシアと異なる点も多く、慣れるまで時間がかかりました。寮のお風呂の使い方を覚えるには何日もかかりました。初日に教えてもらっても、翌日どうすれば良いのかわからなくなると、冷たい水でシャワーを浴びた事もありました。暖かい所から来た私には冬は辛かったです。いくら厚着をしても寒かったのです。こたつの中で過ごした日が多くありました。また、体調が崩れて病院に行こうと思っても、どこに行ったら良いかわからないので、自国から持参した薬を飲むことで済ませました。しかし、困ったことばかりではありませんでした。友達が増えたことで、少しずつ日本の文化、日本人の風習や考え方がわかるようになってきました。仲間とバーベキューしたり、山登りに行ったり楽しい時もたくさんありました。その間、当時の市の国際交流員と知り合いになりました。彼女の仕事の話を聞いた時、彼女の代わりにインドネシアの紹介をした経験で、いつか国際交流員として高知に戻りたいと思うようになりました。

あれから七年後、ついに夢が叶いました。現在、私は高知市国際交流員として勤務しています。留学時代は友達ととても楽しく過ごす日々を送りましたが、今は社会人として来高し、ものごとに対する価値観も変わってきたような気がします。

国際交流員として二年目になった今は、高知について色々気づくことが多くなりました。高知もそのようになったらな、と思う時もあります。交通手段が限られている高知に帰ったらいつも通り自転車を利用しています。自然の豊かな高知なので、山や川のある所へ自転車で行くのが休日の楽しみです。お弁当やカメラを忘れず持っていきます。暖かい天気の日しかない活動ですが、自然の中でボーッとするのが何よりの楽しみです。なので、県外や海外から日本に戻ったら、関空或いは成田に到着してもまだ旅行の途中と感じています。高知の山を見るとやっと帰って来た！と思うようになりました。高知は出身のスラバヤより静かでも人も少ないし、旅行や買い物に不便なのは事実ですが、私は高知の自然、高知の文化、高知の人が好きです。高知に戻る度、あたたかく感じています。高知はまるでホットケーキのようにやさしく体も心を温めてくれます。とさせてくれる所だと私は感じています。

アメリカ・ベルナデテ

一九八〇年 インドネシア共和国スラバヤ市生まれ
スラバヤ第十九国立高等学校を卒業後、スラバヤ市ドクター・ストモ大学文学部日本語学入学。在籍中に高知大学人文学部国際コミュニケーションに一年間留学。二〇〇四年、ドクター・ストモ大学卒業後、スラバヤ市「ジャズミン」日本語学校で日本語教師に。二〇〇七年十月より国際交流基金海外日本語教師向け長期研修のため埼玉県に半年滞在。二〇〇九年八月から高知市総務課国際平和係国際交流員として来高し、現在に至る。

「日本のせんたく」の なぜを読み解く

坂本龍馬の次の言葉は有名だ。

日本を今一度せんたく致し申し候

龍馬の肉声が聞こえてくるような魅力的な言葉である。

文久三年、姉乙女にあてた手紙の中に書かれている。長州と戦って傷ついた異国の軍艦を幕府が手伝って江戸で修理していることを、「売国奴！」と憤った龍馬が、乙女姉にその思いを吐露したものだ。ところがこのフレーズには、なぜかある。

たとえば生徒達に「日本のせんたく」とは、具体的には何を意味しているのだろうか？」と問うと、答えが返ってこない。それでも強引に問うと、：

P「…売国奴をやつつけること。」

P「…日本を改革すること。」

P「…革命を起こすこと。」

などと答える。ところが、「売国

奴をやつつけること」と「改革」と「革命」はかなり異なる。
T「一体この三つのなかのどれなんだろう？」と発問すると誰も答えられない。
次の場合も同じである。

T「日本を今一度…」と龍馬は言っているね。「今一度…」とは、もう一度っていう意味だ。ということはないか？」

P「前に誰かがせんたくしている。」
T「そうだね。龍馬のせんたくは、二度目のせんたくだということになる。では一体、前に誰が日本をせんたくしたと龍馬は思っているのだろうか？」

P「……」（答えられない。）
生徒達が答えられないのは、このフレーズがどういう文脈中で使われているかを知らないからだ。この言葉は以下の文章中に出てくる。
「まずは朝廷から、この神州を守る大方針を発し、…売国奴の役人た

ちと戦って、これを撃ち殺して、この日本を今一度せんたくしたいと強く覚悟をし、神に願う気持ちなのである。」
その上で、生徒達の答えられそうなことから発問してゆく。

T「せんたく」って不自然な言葉だよ。武士の男はふつう洗濯はしない。今の『専業主夫』とは違う。龍馬はなぜ、『せんたく』という武士らしくない言葉を使ったんだろう？」

P「あつ、手紙を読むのが乙女姉さんだから。」
T「そうだね。『姉さんが毎日一生懸命せんたくをしているように、私は日本のせんたくをいたします。』と言っている。一見豪快で野放図な言葉のようだけど、実は姉さんへのいたわりをこめた繊細な言葉だ。

では、口語訳の中に『神に願う気持ち』ってあるけれど、この神ってどういう神だろうか？ キリスト教の神？」

P「神道の神だと思います。」
T「そうだね。神道では、『けがれ』をはらうときに『みそぎ』という儀式をする。水でけがれを洗い流すんだ。『みそぎ』のことを龍馬流に『せんたく』と言ったんじゃないかと先生は考えている。次も仮説だけだ。

口語訳の中に『朝廷から、この神州を守る大方針を発し』ってあるね。日本の支配層に『けがれ』が蓄積し、

それを一掃するために朝廷から大方針が出されたことがあるんだけど、それっていつのことだか知ってる？ 武士の支配を朝廷が一時的にはねけたときだけだ。」

P「建武の中興かな。…」

T「その通り。後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒して、建武の中興と呼ばれる天皇親政の政治を行った。このとき後醍醐天皇に味方して活躍した武将、楠木正成を龍馬は非常に尊敬していたそうだよ。すると、『日本のせんたく』の意味がわかる。前に日本を洗濯したのは？」

P「後醍醐天皇や楠木正成。」
T「彼らがしたことは、やっぱり『倒幕』だ。すると、龍馬が日本をせんたくしますと言っていることの意味は？」

P「倒幕！」
この手紙を書いたとき、龍馬は勝海舟の門人として、神戸海軍塾にいる。(前述の読みが当たっていると仮定すると) 龍馬は幕府の世話になりながら、密かに倒幕を考えていたことになる。

言葉の細部に本音がにじみ出る。龍馬の言葉の魅力は、こういう奥行きにあると考えている。

ひろい まもる
一九五四年 高知市生まれ
早稲田大学第一文学部日本文学科卒業後、私立土佐中高等学校に勤務。
国語の教師。

名作中の名作 「一年半待て」

頭川 博



この作品をこれまで二回ほど読んでいたが、たまたま「名作中の名作」(『松本清張傑作短篇コレクション』(上) 文春文庫) という作家の宮部みゆきさんの評価を目にして、もう一度あたまたに刷りこんでおこうと思いついた。文庫本で二十八ページの濃密な文章構成で、筋が進めば進むほど気持ちが高鳴り、結びの一文で身震いするほどのクライマックスをむかえる彫りの深い傑作である。三回目なのに、まるで初めてであるかのような読後感が残った。調べてみると、一九五七年に雑誌に発表され、一九六〇年から二〇一〇年まで十一回テレビドラマになっている。

ヒロインは、須村さと子という二十九歳の保険勧誘員で、ダム建設工事現場で生命保険加入の市場を開拓する。それで収入をふやして成功す

る一方、酒乱の夫の暴力行為にやむにやまれず、子どもを守ろうとকাশの棒で死においやり、自首して捕まる。世論の同情をバックに登場した評論家高森たき子が正当防衛を勘案して減刑嘆願の運動をになう結果、二年の執行猶予つき三年懲役の判決が確定する。ところが、ある日、高森たき子は、岡島久男というダム工事現場の建設会社の技師の突然の訪問をうける。七節のうち四節以降が二人のあいだのやりとりから構成される。

この作品の扇のかなめは、確定した判決に対して、事後、被告に不利な事実が現れても、裁判のやり直しはしないという一事不再理の原則(憲法第三十九条)にある。この原則が現在ほど人口に膾炙するようになった淵源は、この小説におうところがおおきい。一事不再理という手

堅い軸の設定、話の組み立て方のたくみさ、結末の見事さが、人を引きつけてやまない求心力をなしている。「一年半待て」というのも、かたつむりとその殻のように、内容と一体のタイトルとして読者の脳裏にやきつく要素である。「小説に最も適した題名は、一つしかない」(吉村昭『わたしの流儀』新潮社) ということが思い起こされる。「一年半待て」をふくむ『張込み』(新潮文庫) 所収の八本の短編小説は、どれも、普段の生活で、ことあるごとに会話の題材にのぼる珠玉の作品として忘れ難い。松本清張の分かりやすく、淡い文体は、枯淡の境地をしめす独自の味わいをもっている。漱石

の『坊ちゃん』を八十歳になるまで二十回以上読んだという国語学者の発言を読んだことがあるが、古典と同じように、すぐれた本は、読むた

びに新しい発見がうまれる分、あたまたの栄養になる。

思い返せば、松本清張との出会いも、ひよんなことからであった。二十代半ばに、友人から、先輩が松本清張の小説を一年間に百冊ほど読んだというすさまじい熱狂ぶりを耳にした。これがきっかけになって、『ゼロの焦点』を最初に読み、今までのめりこむことになった。この年

になるまで、広い意味で一番社会勉強をさせてもらったのは、松本清張の小説からだといっても過言でないように思われる。自分の社会に関する知識の裾野は、松本清張作品から成り立っている。高峰秀子は、司馬遼太郎をはじめとする面々の会話をそばで聞いていて、「万金の月謝を積んでも入れない教室に迷い込んだ如く、勉強になった」(『にんげん蚤の市』文藝春秋) という巧みな表現を残しているが、自分の場合も、まったくの僥倖と呼ぶにふさわしい。ある意味では、人生とは、庭石のようにとびとびに存在する偶然の出会いを節目に成り立っているのかもしれない。

ずかわ ひろし
一九四九年 富山県高岡市生まれ
団体職員。

まさかの台風！ ホリカワアートミーティングレポート



今回で9回目となったホリカワアートミーティングところが、南の海に台風が発生。願いもむなしく5月29日(日)の当日は朝から雨、雨、雨。初めての雨天中止となったのです。

そんな中、急きょ、会場を屋内に移して行ったのがオムトンのワークショップと、ミニコンサート。東京から駆けつけてくれた「オムトン」は、とっても素敵な3人のお姉さんたちのグループ。

マリンバ、ジャンベ、ボンゴ、ウインドーチャイムなどいろんなパーカッションを使って、雨雲を吹き飛ばすような、涼しく元気な音色を聞かせてくれました。参加した子どもたちは、高知の山で切り出した青竹等を使って打楽器を制作。オムトンのお姉さんの素敵な指揮と演奏に合わせて、みんなで自慢の楽器を振り回したり叩いたり。親子でニコニコの、楽しい演奏会になりました。

「かるぼいち」や「カヌー」「マイはし」ワークショップを楽しみにしていた皆さん、ごめんなさい。次回は秋、9月25日(日)を待っていてくださいね。



Fried Pride presents

THE PARTY

6月1日大ホールにて「フライドプライドと仲間たち The Party」を開催しました。

この公演は、世界をフィールドに活動するジャズユニット、フライドプライドが、同じく世界を舞台に活躍する日野皓正さん(トランペット)、cobaさん(アコーディオン)、ヤヒロトモヒロさん(パーカッション)、熊谷和徳さん(タップダンス)という超一流のアーティストを迎えるという、まさに夢の共演が実現しました。

高知公演はこのツアーの第1回目の公演ということもあり、メンバーは公演前日より高知入りし、熱のこもったリハーサルを行いました。

リハーサルの合間にも、メンバーやスタッフを気遣った冗談を連発する日野さん、的確な指示で演奏の完成度を引き上げるcobaさんなど、やはり一流のミュージシャンが集うステージは特別な空気が流れます。

そして本番当日。期待いっぱい膨らんだ客席と、それに負けないくらいに気合いの入ったメンバー達。相乗効果で素晴らしい盛り上がりとなりました。

本編終了時にはフライドプライドのお二人がお客さん全員を立たせてハンド to ハンドを行い、アンコールではアーティスト全員が勢揃いし、まさにタイトル通りのパーティのようなステージとなりました。

第63回高知市展 美術体感イベント

「あなたダビンチぼくピカリ」



雨降りなのにかかるぼーとの前の広場には人がいっぱい。さすが人気のイベント！

最初に入ったテントは「エコ・アート」。植木鉢に絵を描いて持って帰れるコーナーだ。次は、隣の「筆と遊ぼう」でうちわをもらった！ 自分の好きな字を書いて、さっそく今日から使おうかな。お、すごい列ができてるな。「クリアファイルに絵を描こう」コーナーだ。ちょっと待ったけど、いいファイルができたぞ。さて、次はと…「字は楽しく書くのが一番」コーナーだ。先生に書き方を教えてもらってちょっと緊張。きれいな字のコツをおぼえたらどんどん書きたくなってきた。

友達のD君は、「カメラマンに挑戦」したみたい。プロのカメラマンになったみたいでカッコいいな。「キャララ村キャラクターをつくろう」のコーナーでは、村岡マサヒロさんと一緒にオリジナルキャラクターを作ったんだって、いいな。

次は、D君と一緒にかかるぼーとの中に入っていく。9階に着いたら、みんなかわいいキーホルダーをぶら下げているぞ。「キーホルダー作り」だ。プラスチックの板に絵を描いてオリジナルキーホルダーを作ったぞ。さあ、最後は10階の「粘土で遊ぼう」コーナーに行くぞ。久しぶりにやる土いじりも気持ちいいな。大好きな恐竜を作って自分の部屋に飾ろうと。

9つのブース全部回るのは無理だったけど、今日半日でいろんな美術を体験できておもしろかったな。また来年もあったら絶対行くぞ！ 楽しみ。

お母さんたちは、7階で開催中の「第63回高知市展」を見てきたみたい。絵や書、陶芸から写真まで全部で10ジャンル798点の作品を見たんだって。姉妹都市北見市の美術作品31点の中に北見市長の作品があったり、北見市特産のオニオンスープをプレゼントされたりと充実した内容だったみたい。今回は、東日本大震災チャリティー展もやっていて、1000円以上の募金で好きな作品を持って帰れるので、僕のお母さんはきれいな日本画の色紙をもらってきたよ。



今日は、親子で美術を体験・体感した充実した一日になったな。7月10日(日)には、小学生対象の「MOTTAINAIキッズフリーマーケット」があるので、またかかるぼーとに遊びに行こう。

第61回 高知市夏季大学

高知市の夏の風物詩として広く親しまれている高知市夏季大学。各界の第一線で活躍する講師陣の講演を聞いて、夏の夜を有意義に過ごしてみませんか。

- 期 間 7月25日(月)～8月5日(金) (土・日曜日は休講の10日間)
- 時 間 18:30～20:00 (開場18:00)
- 会 場 高知市文化プラザかるぼーと大ホール
- 受講料 一般 3,600円、割引(学生・高齢者等) 2,600円
※どちらも10日間通しの料金
※7月1日(金)から販売
当日券 900円
※各講演日当日、席に余裕がある場合のみ
会場で販売

お問い合わせ (財)高知市文化振興事業団 TEL088-883-5071

風 伯

煙草のけむり

て云った「火をかしてください。ぼくの暗い心に、火を灯してください。あなたの赤いマッチで」と時代を映し出している。そんな煙草もいまでは禁煙ならぬ嫌煙され、愛煙家は肩身が狭い。ヘビースモーカーだった私も十数年前の大病をきっかけに喫煙を諦めた。

五輪真弓の「煙草のけむり」が流行ったのは一九七〇年代初めのころだったように記憶している。そのころの都会の気だるい空気のなかで私はすでに煙草を吸っていたし、煙草を吸うことがどこか退廃的なファッションを演出していたように思っていた。

歌詞は「あなたは煙草をくわえ。そして、向こう三軒両隣どころか、境界の人々とはおおよそ顔なじみになり、道で会うと声をかけあいさつした。通りでは、子供たちが遊び、大人たちもそこを交流の場としていた。車はほとんど通らず、騒音も排ガスもなく、すべてが人間のためであった。日本の町には、ヨーロッパのような広場はないが、路地がその機能を兼ねており、人々が集い、語り、楽しく交流する場だった。それは何も高知の街にかぎったことではなかった。アジア初のノーベル文学賞を受賞したインドの文学者・哲学詩人のタゴールは、初めて日本を訪れた時、戦前の神

まさに中毒症状だが、喫煙が禁じられていない公道や公園、分煙されたレストランの喫煙席などでは堂々と煙草を吸うことになる。しかし限られた部屋のなかで吸うのではなく、こうした公共の場所では煙草を吸わない大人や子供もいるわけだから、却って始末が悪い。最近「肩引き」とか「傘かしげ」という「江戸しぐさ」があることを知った。相手を思いやる気持ちだが、喫煙ひとつとってどうした心遣いが消えつつあるようだ。

(霖)

第9回 詩のボクシング 高知大会

二人の朗読者(朗読ボクサー)が、自作の文章や独自の視点で作品化したもの(詩・散文・歌詞・日記・手紙・台本・コントなども可)を声に出して朗読し、どれだけ観客を惹きつけたかを競い、複数のジャッジが勝敗の判定を下していく《言葉のスポーツ》です。あなたも予選会に参加してみませんか。

【予選】

平成23年7月9日(土)

午後1時開演
かるぼーと小ホール

参加費 一般 500円
中高生 300円 ※観覧無料
※高知県在住者または出身者で15歳以上の方
※本大会参加者16人を選考。1人3分以内で作品を朗読します。
※3人1組の団体戦も募集中
(団体戦は参加費無料)

【本大会】

平成23年9月24日(土)

午後1時開演
かるぼーと小ホール

入場料 前売り一般 1,000円(当日1,300円)
中高生 500円(当日 800円)
※16人によるトーナメント戦と別に3人1組の団体戦を行います。

【お問い合わせ】

(財)高知市文化振興事業団
088-883-5071

今号の表紙

「あの夏の日」

野村 沙矢

見る人に子供の頃の夏休みを思い出し、なつかしい気持ちになってもらえるような表紙を目指しました。

同時に涼やかさも出したいと思い、水彩を使用し制作しました。

(のむら さや/
国際デザイン・ビューティカレッジ2年生)



高知を撮る

第27回写真コンテスト入賞作品

一休み

(昭和45年8月 高知市役町)

中井 秀夫

トラックから荷物を降ろして一休みする。

街のぬくもり



風俗歳時記

住めば都というように、今はすっかり近代都市慣れしてしまったが、戦後しばらくの高知市には、裏町に昔の風情が色濃く残っていた。近隣同士助け合って暮らしており、そこで織りなす生活には、時に過剰と思われるほどの人間くささがあり、温もりが伝わってきた。向こう三軒両隣どころか、境界の人々とはおおよそ顔なじみになり、道で会うと声をかけあいさつした。通りでは、子供たちが遊び、大人たちもそこを交流の場としていた。車はほとんど通らず、騒音も排ガスもなく、すべてが人間のためであった。日本の町には、ヨーロッパのような広場はないが、路地がその機能を兼ねており、人々が集い、語り、楽しく交流する場だった。それは何も高知の街にかぎったことではなかった。アジア初のノーベル文学賞を受賞したインドの文学者・哲学詩人のタゴールは、初めて日本を訪れた時、戦前の神

戸の街中で、子供たちが無心に遊びほうけているのを見てこう言っている。「二つの光景が、わたくしを非常に幸福にした。それは日本の子供である。こんなおおぜいの子供が、いたるところの路上で遊んでいるのをどこの国に行っても見たことがない。日本人は花を愛するように、子供を愛しているからだと思った。子供を愛するには、うわべの飾りはいらない。ただ、わたくしなく偏狭なくして、彼らを花のように愛することができればよいのである。(周郷博「母ありてこそ」)

(霖)



子供のための
シェイクスピア
カンパニー

冬物語

作 W・シェイクスピア
小田島雄志翻訳による
脚本・演出
山崎清介

伊沢磨紀
佐藤 誓
山口雅義
戸谷昌弘
尾崎右宗
キム・テイ
谷畑 聡
太宰美緒
山崎清介

宝くじ文化公演 2011年 **8.20** 土 開演 14:00
開場 13:30
高知市文化プラザかるぽーと 大ホール

料金 全席自由 一般 1,500円(当日2,000円) 高校生以下 800円(当日1,000円) ※宝くじの助成により、特別料金となっています。
お問い合わせ (財)高知市文化振興事業団 TEL:088-883-5071

